

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3526		
科目名	刑事政策		
担当教員	金山 泰介		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F[探究力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1倫理的思考・社会認識 10% E1学識と専門技能 50% G1状況把握 10% I1理解・分析と読解 10% I2量的分析 10% I3情報分析 10%		
教員の実務経験	警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を基に、刑事政策の企画、立案、執行、評価の各段階について具体的に説明します。(第9～14回)		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 定着期		
科目概要・キーワード	犯罪を防止し、犯罪者に対する刑罰を執行し、矯正を図り、社会復帰を促進して社会の秩序を維持し、再犯を防止し、被害者対策を推進する刑事政策は、近代化、グローバル化、少子化、情報化など社会が急激に変化する中で、少年犯罪の増加、家庭内における暴力犯罪の顕在化、犯罪に対する重罰を求める国民感情の変化など犯罪をめぐる変化に対して、様々な法改正や制度改正の取組によって対応してきました。そうした刑事政策における様々な取組の現状について具体的事例を取り上げて考察し、さらに今後の課題と取組のあり方について検討します。こうした犯罪対策に関して基礎的な議論ができることを目標とします。授業形態は、講義形式で行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型）を取り入れます。 （キーワード） 刑事政策・刑事司法・犯罪理論		
授業の趣旨	■副題 犯罪者の矯正、更生による再犯防止政策を学ぶ。 ■授業の目的 社会安全政策のうち、刑事罰の目的等刑事裁判システム及び法務省が担当する政策特に受刑者の矯正、更生、並びに犯罪の原因及びその予防に関する理論について理解を深める。 ■授業のポイント 刑事政策の変遷や犯罪理論の発展を踏まえ、現行の制度や政策を立体的に理解すること。		

総合到達目標	■一般目標（GIO） 犯罪に関する基本的な理論について、具体的な政策にどのように反映されているのか、また、受刑者の再犯防止について国家、社会、個人が果たすべき役割について自分の言葉で説明できるようになること。 ■個別行動目標（SBOs） ・主な犯罪理論の概要を説明できる。（第3、4回） ・現在の刑事政策に取り入れられている環境犯罪学の理論について具体的に説明できる。（第4回） ・刑罰の目的を説明できる。（第5、6回） ・受刑者の処遇の概要と現状の課題を説明できる。（第8、9、12回）	
成績評価方法	■授業内試験2回（80%）：適用ルーブリック C1・E1・G1・I1・I2・I3 （評価の視点） 刑事政策に関する断片的な知識の羅列ではなく、政策の変遷や犯罪理論の発展を踏まえた総合的な論述を求めます。理解の正しさ、表現力も評価します。 （フィードバックの方法） 試験後に論点等の解説をします。 ■リアクションペーパー、課題（20%）：適用ルーブリックE1・I1 （評価の視点） 予習・復習の励行の有無が評価されます。 （フィードバックの方法） 授業内で説明します。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	刑事司法に関する報道に積極的に接してください。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義項目、評価方法等を理解する。 ③予習（60分）シラバスの精読 ④復習（60分）講義ノートを整理し、自分の学習計画と他の履修科目との関係を検討する。
	2	①授業テーマ 刑事司法制度の概観 ②授業概要 犯罪認知から刑の執行までにいたる我が国の刑事司法制度の概要及びその運用の理念(E)を説明できるようになる。(E1・G1・I1・I2・I3) ③予習（120分）事前配布資料を精読し、犯罪者が検挙されてからの刑事司法手続きについてその流れを考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、犯罪者がその刑事責任によって様々な段階で処分されていることについてまとめる。
	3	①授業テーマ 犯罪に関する理論の系譜Ⅰ（犯罪原因論） ②授業概要 伝統的な犯罪の原因に関する理論の内容及びその変遷の背景（E）について説明できるようになる。（E1・G1・I1・I2） ③予習（120分）事前配布資料を精読し、犯罪がなぜ起きるのか考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、犯罪の原因についての様々な学説の系統図を作成する。
	4	①授業テーマ 犯罪に関する理論の系譜Ⅱ（犯罪予防の理論） ②授業概要 犯罪の原因に関する理論から犯罪予防の理論が発展した経緯及びそれが刑事政策もたらした変化（E）を説明できるようになる。（E1・G1・I1・I2） ③予習（120分）事前配布資料を精読し、犯罪予防の手立てについて考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、犯罪予防の理論が現実の政策にどう反映されているのかまとめる。
	5	①授業テーマ 刑事法制の変遷と刑罰制度 ②授業概要 刑事法制の変遷及び刑罰制度（E）について説明できるようになる。（E1・G1・I1・I2） ③予習（120分）事前配布資料を精読し、刑罰の目的について考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、様々な刑罰のあり方についてまとめる。
	6	①授業テーマ 刑罰制度の在り方 ②授業概要 前回の講義に基づきグループ討議（H、K）を行い、各グループごとに討議の概要を発表する。（C1・E1・G1・I1・I2） ③予習（120分）指示された課題を考察する。 ④復習（120分）講義ノートを整理し、他グループの発表内容と自グループの討議内容を比較検討する。

	7	①授業テーマ 中間試験と前半のまとめ ②授業概要 前半の講義内容から出題する。出題の解説に基づき前半の講義のポイントを押さえる。(C1・E1・G1・I1・I2・I3) ③予習(240分) 試験の準備をする。 ④復習(60分) 解説に基づき答案を再構成する。
	8	①授業テーマ 受刑者の処遇 I (施設内処遇) ②授業概要 刑務所等の施設における受刑者の処遇の現状及び課題(E)について説明できるようになる。(C1・E1・G1・I1) ③予習(120分) 事前配布資料を精読し、刑事施設における受刑者の生活について考察する。 ④復習(120分) 講義ノートを整理し、受刑者処遇の法改正についてまとめる。リアクションペーパーを提出する。
	9	①授業テーマ 受刑者の処遇(社会内処遇) ②授業概要 刑務所等の施設外における受刑者の処遇の現状及び課題(E)について説明できるようになる。教員の実務経験に基づき具体的に説明します。(C1・E1・G1・I1) ③予習(120分) 事前配布資料を精読し、刑事施設外での受刑者の生活について考察する。 ④復習(120分) 講義ノートを整理し、社会内処遇における受入れ態勢整備の重要性をまとめる。
	10	①授業テーマ 非行少年の処遇 ②授業概要 非行少年の処遇について、成人との対比においてその違いの意義(E)を理解できるようになる。教員の実務経験に基づき具体的に説明します。(C1・E1・G1・I1・I2) ③予習(120分) 事前配布資料を精読し、成人と少年の違いについて考察する。 ④復習(120分) 講義ノートを整理し、成人年齢引き下げによる問題点についてまとめる。
	11	①授業テーマ 触法精神障害者の処遇とディバージョン ②授業概要 刑罰法規に触れる行為をした精神障害者の処遇及び刑罰以外の処遇(ディバージョン)(E)について説明できるようになる。教員の実務経験に基づき具体的に説明します。(E1・I1) ③予習(120分) 事前配布資料を精読し、刑事処分できない犯罪者について考察する。 ④復習(120分) 講義ノートを整理し、刑事罰以外の手段による犯罪予防、再犯防止策の意義についてまとめる。
	12	①授業テーマ 総合的な再犯防止対策 ②授業概要 「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」等に盛り込まれている総合的な再犯防止対策(E)について、教員の実務経験に基づく解説を踏まえ具体的に説明できるようになる。(C1・E1・G1・I1・I2) ③予習(120分) 事前配布資料を精読し、犯罪者が悔い改めることの意味を考察する。 ④復習(120分) 講義ノートを整理し、犯罪の矯正、更生に当たって様々な組織、個人が果たすべき役割についてまとめる。
	13	①授業テーマ 刑事司法改革 ②授業概要 裁判員裁判制度の導入等平成期に行われた刑事司法改革の概要及び背景(E)について説明できるようになる。教員の実務経験に基づき具体的に説明します。(E1・I1・I2) ③予習(120分) 事前配布資料を精読し、裁判員裁判の意義を考察する。 ④復習(120分) 講義ノートを整理し、刑事司法制度改革の流れとその結果をまとめる。
	14	①授業テーマ 平成期の犯罪状況の分析 ②授業概要 平成期における犯罪の増加と減少についてその要因(I)を説明できるようになる。教員の実務経験に基づき具体的に説明します。(I1・I1・I2.I3) ③予習(120分) 事前配布資料を精読し、身近な犯罪の脅威について考察する。 ④復習(120分) 講義ノートを整理し、犯罪の増加、減少の理由についてまとめる。
	15	①授業テーマ 期末試験と講義のまとめ ②授業概要 講義全体から出題する。出題の解説に基づき講義のポイントを押さえる。(C1・E1・G1・I1・I2・I3) ③予習(300分) 試験の準備をする。 ④復習(60分) 解説に基づき答案を再構成する。
関連科目	警察政策(RMGT3530) 犯罪心理学(RMGT3524) 社会安全政策論(RMGT3521) 警察制度(RMGT3525)	

教科書	指定しません。
参考書・参考URL	「社会安全政策論」警察政策学会編 立花書房(2018) 「犯罪白書各年版」法務省
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 初回授業時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜1限（重複を避けるためメールで連絡願います。）その他の時間でもメールで事前アポをとることにより、研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 パブリックセキュリティ（70%）災害マネジメント（10%）グローバルセキュリティ（10%）情報セキュリティ（10%） ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学（50%）法学（50%）

